

佳作

同じでなくても

新潟県長岡市立東北中学校

3年 西田 牽

「それな。」

あなたはこの言葉をどれだけ使っているだろうか。使う場面としては、相手に同調したり同意したりするときに挙げられる。

僕も多用する言葉ではあるが、自分の言動を振り返ってみたときに、無意識のうちに多用しすぎているな、と思った。それによって自分の本来の考えが薄くなっていっているように感じている。

人が同調してしまう理由として、集団の一員として認められたい規範的影響と、周囲の意見と行動をもとに判断してしまう情動的影響という二つの要因があるそうだ。これらはグループで行動しているときによく感じるのではないか。日常生活における同調の例として、

「あの子がこうしているから私もそうする。」

「みんなが手を挙げる方にしよう。」

「誰も移動しないから移動しづらいな。」

などがある。僕もこんなふうに、相手に無理して合わせていたような時期があった。

小学生の時に、仲の良い友達にペースや行動、好みも合わせていた。ただ、しばらくしてからその友達は

「合わせてこなくていいよ。」

と伝えてくれたのだ。

その時の自分は、人と違う意見を持つことにおびえ、嫌われたくない一心でそのような行動に走ってしまったのだが、今考えてみたらその友達にとっては合わせられることが良いものではなかったと思うし、「合わせなくていい。」と言うことも相当勇気が必要だったと考えている。僕にはその勇気がなかったのだ。

このように、同調しないことはとても勇気がいることだが、同調しっぱなしでも周囲も自分も居心地が良いわけではないだろう。無理矢理合わせに行く相手より、本音を言い合える関係の方が自分らしくあれるのではないか。この経験から、そんな考えを持つことができた。

話は変わって、SNS上にも同調は存在している。一番わかりやすい例だと、「流行」だ。これは、情動的影響が主に要因といえる。また、芸能人などに対

する誹謗中傷も、人のコメントを読んだりして影響されて自分もコメントを書いてしまう。そうやってとげとげしい言葉が広がって「炎上」するのだ。

SNS上ほど他者に振り回されやすい環境はないと考える。その中でどれだけ自分の考えをブレさせないかが大事になってくると思う。

いじめも主犯格に同調する人が集まって起こる問題だ。集団に違う意見を言いに行くことは難しいと考える人は多いと思うが、同調圧力に逆らう勇気を持つことで、未来の自分は泣いていないだろう。

ここまでの話で、

「相手に同調するのは優しさではないか。」という疑問が寄せられそうだが、同調したことによっていじめの被害者になってしまった場合、それを「優しさ」と言えるだろうか。

「それはだめだよ。」

と声を上げられることこそ優しさではないか。

これからの時代ではAIなどの意見を取り入れる機会が増えていくと思う。その中で、自分の意見を確立させておかないと、皆似たり寄ったりの意見になってしまうのではないだろうか。それではつまらない。今のうちに「わたし」としての意見を明確にさせる癖をつけておくべきだと考えている。

「それな。」

この言葉は、時には相手を安心させるものにもなり、時には誰かを傷つけるきっかけになるものでもあるのだ。同調しない勇気を、あなたは持てているだろうか。